

2022年

新春

対談

鹿児島のみちで自分の夢に向かって進む学生お二人が、下鶴市長とmark MEIZAN(名山町)で対談しました。

左から 稲森さん、下鶴市長、村上さん▶



### コロナ下で気付いた「人とのつながり」

**市長** 新型コロナウィルス感染症の影響で、お二人の学生生活も大変なことが多かったでしょうね。

**稲森さん** 留学の予定が無くなったのは、英語を専攻しているので残念でした。学内の行事も中止になったり、オンラインで開催されました。

**市長** 語学の勉強にも、オンラインやリモートを活用したりしましたか。

**稲森さん** はい。文化祭で発表する英語のミュージカルの練習では、せりふの言い方を、オンラインで外国人の先生に一对一でアドバイスしていただきました。

**市長** 学習を進める上では、プラスになる部分もあったかもしれないですね。一方で、大学は一生の仲間を見つかる場所だとも思いますが、友達との交流などはどうでしたか。

**稲森さん** オンライン授業中には、分からないところがあっても友達に気軽に聞けなかったのも、後で電話しておさらいしました。また、思い出作りができる行事が無くなった分、大学で集まる機会があったときなどに、みんなで写真を撮って思い出を残しました。

**村上さん** 僕は機械工学を専攻していますが、研究室に滞在できる時間が短くなり、なかなか思ったところまで研究を進められません。オンライン講義になったことで、みんなで考えて問題に取り組む機会が失われたり、カリキュラムが減ったりもしました。



**市長** 勉強とか研究は、一人でするだけではなくて、みんなと意見を出し合って、自分の考えをブラッシュアップする面もあると思います。オンラインもさらに工夫を重ねていく必要性を感じます。

また、お二人とも、人とながつて何かができる場の大切さをすごく実感されているなあと思います。

### 改めて思う鹿児島の良さ

#### 食、焼酎、温泉の育むもの

**市長** 村上さんは学生ながら事業を起こして、起業する人や飲食店への支援などをされているとのことですが、影響はどうでしたか。

**村上さん** 事業面では、やはり減収したことや一番大きかったです。いろいろな職種を経験して事業に生かしたいと思い、営業職やコールセンター、鹿児島の食べ物、大好きなので飲食店でのアルバイトもしていました。それもできず、日々の生活でけっこう苦しい思いをしました。



**市長** 飲食店などへのコロナの影響は本当にとても大きかったと思います。

**村上さん** 僕は焼酎が好きで、いろいろな飲食店に行つて飲みながら、さまざまな世代の人から経験談などを聞いて、自分のやりたいことについて考えを深めていました。これが鹿児島にずっとあった魅力なんだと、一緒に飲む機会を失って強く感じました。

自分の好きだったお店が無くなってしまったときには、鹿児島の食の伝統などが廃れていくのではないかと不安を覚えました。



**市長** 私もそうだった場が大好きで、飲食店の様子も見たりしています。まちを歩いていると撤退したお店もあって、影響の大きさをひしと感じています。市としても家賃補助や雇用維持の支援などにより、一刻も早くまちのにぎわいが戻るように全力を尽くしていきたいと、改めて思いを強くしています。

**稲森さん** 私は温泉が好きで、温泉に行くとき必ず話しかけてくれる年上の方がいて、学校の話をしたりしていたのですが、今は気軽に話せなくなりました。学校で食べるお弁当も黙食だったりして、人と話すことは大切なことだったんだと実感しています。

**市長** やはり、人とのコミュニケーションの重要さに気付かされましたよね。

ここで、温泉、焼酎という鹿児島のキーワードが出



ました。銭湯のほとんどが温泉なのは、鹿児島のセールスポイントです。焼酎もそう。鹿児島はそれぞれの地域の焼酎があるのが面白く、ひいきの地域の焼酎を話題にしても場が盛り上がりやすいですね。もちろん、ぜひ、鹿児島市の焼酎を飲んでいただきたいですが(笑)

コミュニケーションは、実はあるのが当然なのではなくて、鹿児島ならではの食や焼酎、温泉がそれを育んでくれている。そんなつながりの豊かさが鹿児島の良さなんだなあと、改めて思いました。